

《担当者名》 教授/越野 寿 准教授/豊下 祥史 講師/川西 克弥  
 助教/佐々木 みづほ 助教/菅 悠希  
 助手/木村 聡 助手/佐藤 夏彩  
 非常勤講師/伊東 由紀夫

【概要】

Kennedy 級下顎模型を用い、講義で得た知識をもとに、研究用模型上にて部分床義歯の仮設計を行い、マネキン口腔内で実際に補綴の前処置を施した後、下顎部分床義歯を製作する。さらに、完成した部分床義歯をマネキン口腔内に装着することを通じて、部分的な歯の欠損に対する補綴治療のあり方について実践的に学習する。

【学修目標】

- 部分無歯顎補綴診療における一連の基本的診療術式を説明する。
- 部分無歯顎補綴診療における一連の基本的技工操作を説明する。
- 部分無歯顎補綴診療における一連の基本的診療術式を実施する。
- 部分無歯顎補綴診療における一連の基本的技工操作を実施する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	材料、器具、器材の点検 義歯の仮設計 個人トレーの製作 示説あり	部分床義歯の製作に必要な材料、器具、器材の取扱い、及び実習の進め方について理解する。 サベヤーを使用し、研究用模型上でアンダーカットの分布、義歯着脱方向の決定を行う。サベヤー及びそのアクセサリーの使用法と目的を学習するとともに、義歯の各構成要素とその役割、あり方についての理解を深める。ついで、支台歯の選択、補綴的前処置、レストの設置部位、大連結子の種類、直接支台装置及び間接支台装置の設置部位、義歯床の設置部位等を検討し、金属床義歯の設計を理解する。 研究用模型（購入した石膏模型）上で、下顎の個人トレーを製作し、精密印象について理解する。 E-3-4)-(2)- 、F-3-4)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 佐々木 みづほ 菅 悠希 木村 聡 佐藤 夏彩 伊東 由紀夫
2	前処置 精密印象 示説あり	仮設計に基づき、マネキン口腔内で誘導面ならびにレストシートの形成を行い、前処置について理解する。 個人トレー、シリコンラバー印象材を用いて精密印象採得を行い、精密印象について理解する。なお、本実習では筋圧形成は行わないが、筋圧形成が必要な範囲を理解する。 精密印象への石膏注入は行わず、購入した石膏模型を作業用模型とするが、ボクシングを含めて作業用模型の製作方法について理解する。 E-3-4)-(2)- 、F-3-4)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 佐々木 みづほ 菅 悠希 木村 聡 佐藤 夏彩 伊東 由紀夫
3	咬合床の製作 咬合採得 示説あり	作業用模型上で咬合床を製作した後、遊離端欠損患者を想定した咬合採得を行うとともに、多様な部分床義歯症例における咬合採得のあり方を学び、下顎運動、下顎位についても学ぶ。 E-3-4)-(2)- 、F-3-4)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 佐々木 みづほ 菅 悠希 木村 聡 佐藤 夏彩 伊東 由紀夫
4	スプリットキャストの前準備 咬合器装着 ワイヤークラスプ屈曲練習 示説あり	作業用模型基底面にスプリットキャストの前準備を施し、スプリットキャスト法により平均値咬合器に装着し、咬合器装着の方法について学習する。なお、各種咬合器のなかで平均値咬合器のしめる位置及びその特徴を理解する。 石膏棒に指定された設計線を記入後、設計線に一致するようにワイヤーの屈曲練習を行う。これにより	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 佐々木 みづほ 菅 悠希 木村 聡 佐藤 夏彩

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		プライヤーの使用方法を修得するとともにワイヤークラスプのあり方を学習し、さらに、鑄造クラスプとの異同について学ぶ。 E-3-4)-(2)- 、F-3-4)-	伊東 由紀夫
5	サベイング 義歯の設計 リリーフ・ブロックアウト 示説あり	サベヤーを使用し、作業用模型上で金属床義歯の最終設計を行うことにより、サベヤー及びそのアクセサリーの使用法と目的を学習するとともに、義歯の各構成要素とその役割、あり方についての理解を深める。ついで、支台歯の選択、補綴的前処置、レストの設置部位、大連結子の種類、直接支台装置及び間接支台装置の設置部位、義歯床の設置部位等について理解する。 義歯の設計を完了した作業用模型に、耐火模型を製作するために必要なリリーフ及びブロックアウトを施すことによりフレームワーク各部のあり方、フィニッシングラインの位置と形態について学ぶ。 E-3-4)-(2)- 、F-3-4)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 佐々木 みづほ 菅 悠希 木村 聡 佐藤 夏彩 伊東 由紀夫
6	複印象 耐火模型制作 示説あり	シリコンラバー印象材を使用して、耐火模型製作の複印象を採得し、耐火模型を製作することにより、金属床義歯製作過程における耐火模型の意義、取扱いについて学ぶ。 E-3-4)-(2)- 、F-3-4)-(3)- 、	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 佐々木 みづほ 菅 悠希 木村 聡 佐藤 夏彩 伊東 由紀夫
7	耐火模型への設計線転写 ワックスアップ 示説あり	耐火模型上に設計線の転写を行い、メタルフレームのあり方について復習する。ついで、リングルバー、維持格子部、支台装置及び小連結子のワックスアップを行い、ワックスの取扱い方法及びフレームワークの各構成要素についての基礎的事項について理解する。 フレームワークの各構成要素のワックスアップ完了後、各構成要素を連結し、フィニッシングライン部を形成してワックスパターンを完成させることにより、フレームワークの形態的特徴について理解する。 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 佐々木 みづほ 菅 悠希 木村 聡 佐藤 夏彩 伊東 由紀夫
8	フレームワークの形態修正・研磨 示説あり	本実習では、埋没・鑄造は行わないが、フレームワークの（歯科用合金）の鑄造に関する基礎的事項について学ぶ。 フレームワークの形態修正及び研磨を行う。研磨の手順とその意義について学ぶ。 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 佐々木 みづほ 菅 悠希 木村 聡 佐藤 夏彩 伊東 由紀夫
9	ワイヤークラスプの屈曲 示説あり	コンビネーションクラスプに使用する頬側ワイヤークラスプを屈曲する。歯冠形態に適合したワイヤークラスプの屈曲方法、各種プライヤーの使用方法について学ぶ。 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 佐々木 みづほ 菅 悠希 木村 聡 佐藤 夏彩 伊東 由紀夫
10	咬合堤の製作 人工歯排列 歯肉形成 示説あり	人工歯排列の前準備として、フレームワークの維持格子部に咬合堤を製作し、下顎臼歯部人工歯の排列を行う。部分床義歯における人工歯の選択、排列及び咬合の与え方について学ぶ。 人工歯排列終了後、義歯床の床翼形態、及び辺縁形態、歯肉形成の術式及びその意義について学ぶ。 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 佐々木 みづほ 菅 悠希 木村 聡 佐藤 夏彩 伊東 由紀夫

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
11	ろう義歯試適 ろう義歯埋没 示説あり	完成したろう義歯をマネキンの口腔内に試適し、フレームワークの適合、顔貌との調和、及び咬合接触の均等性を点検することにより、ろう義歯試適の意義について学ぶ。 試適の完了したろう義歯を、アメリカ・フランス併用法によりフラスクに埋没する。ろう義歯埋没方法の種類・術式・適応、及びその意義について学ぶ。 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 佐々木 みづほ 菅 悠希 木村 聡 佐藤 夏彩 伊東 由紀夫
12	流ろう 加熱重合レジン填入 レジン重合 示説あり	流ろうの完了したフラスクに、餅状レジンを填入し、試圧及び余剰レジンの除去を繰り返した後、温水中で重合を行う。加熱重合レジンの填入方法及び重合様式・術式及びその理論について知識を復習し、適合良好な部分床義歯の重合術式について学ぶ。 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 佐々木 みづほ 菅 悠希 木村 聡 佐藤 夏彩 伊東 由紀夫
13	義歯の取り出し 咬合器再装着 咬合調整 示説あり	レジン重合後、冷却の完了したフラスクから作業用模型と金属床義歯を一塊として取り出す。取り出した作業用模型は、スプリットキャスト法を応用して咬合器に再装着し、咬合調整を行う。フラスクからの取り出し方法の術式の修得、及びレジンの重合による寸法変化（熱及び重合収縮）について復習し、スプリットキャスト法の意義、さらに、部分床義歯に付すべき咬合様式について学ぶ。 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 佐々木 みづほ 菅 悠希 木村 聡 佐藤 夏彩 伊東 由紀夫
14	研磨・完成 示説あり	咬合調整の完了した義歯を作業用模型から取り出した後、形態修正及び研磨を行い、部分床義歯を完成する。義歯床の床翼形態、及び辺縁形態を復習し、さらに、床用レジンの研磨術式の習得、及び研磨の意義について学ぶ。 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 佐々木 みづほ 菅 悠希 木村 聡 佐藤 夏彩 伊東 由紀夫
15	完成義歯の口腔内装着 示説あり	印象材系の適合試験材による適合試験を行う。 ペースト系の適合試験材による適合試験を行う。 咬頭嵌合位、及び偏心位における咬合調整を行う。 新義歯の装着の進め方について理解する。 E-3-4)-(2)-	越野 寿 豊下 祥史 川西 克弥 佐々木 みづほ 菅 悠希 木村 聡 佐藤 夏彩 伊東 由紀夫

#### 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

#### 【評価方法】

[ 部分床義歯補綴学（実習）評価方法 ] 製作物（70%）、実習試験（30%）

- ・ [ 部分床義歯補綴学（講義）評価方法 ] 定期試験（100%）
- ・ [ 判定法 ] 講義と実習を同等に評価し、それぞれが60点以上を合格とする。

#### 【教科書】

「部分床義歯補綴学実習」北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系咬合再建補綴学分野

#### 【参考書】

「スタンダード部分床義歯補綴学」藍 稔、五十嵐 順正 編 学建書院

「パーシャルデンチャーテクニック」五十嵐 順正、石上 友彦 ほか 編 医歯薬出版

#### 【学修の準備】

指定した教科書の該当ページを事前に読み、疑問点を整理する（50分）。

実習開始時に前回までの講義・実習内容に係る小テストが実施されるので復習する（50分）。

**【ディプロマ・ポリシーと当該授業科目の関連】**

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために必要な知識を部分床義歯補綴学の観点から修得する（専門的実践能力）。

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を部分床義歯補綴学の観点から身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を部分床義歯補綴学の観点から身につける（自己研鑽力）。

DP4.多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を部分床義歯補綴学領域でシミュレーションする（多職種が連携するチーム医療）。

DP5.歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な知識を部分床義歯補綴学の観点から修得する（社会的貢献）。

**【実務経験】**

越野 寿（歯科医師）、豊下祥史（歯科医師）、川西克弥（歯科医師）、佐々木みづほ（歯科医師）、菅 悠希（歯科医師）、木村 聡（歯科医師）、佐藤夏彩（歯科医師）、伊東由紀夫（歯科医師）

**【実務経験を活かした教育内容】**

部分床義歯補綴学は、無歯顎者の機能的、形態的回復を通じて、患者の全身の健康の維持や回復に寄与する科目であり、学理にのっとった教育内容と実務経験を背景とした経験談が対をなすことで優れた教育成果が期待できる内容となっている。